生徒番号（　　）氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1908 年、オーストリアがボスニア=ヘルツェゴビナを併合すると、それに反対する[1 *セルビア*]などはロシアの支持をうけ[2 *バルカン*]同盟を結成、トルコを破った。しかし同盟内の対立から第二次バルカン戦争が勃発した。こうした過程のなかで[3 *パンスラブ*]主義を唱えるロシアの影響力がいっそうつよまり、一方[4 *パンゲルマン*]主義を唱えるドイツはトルコ、ブルガリアと結んで失地回復をめざし、この地域の対立はいっそう厳しいものとなった。

第16章 二つの世界大戦　1．第一次大戦とロシア革命

a．大戦の発生

①　[5 *1914*]年6月 28 日　[6 *サラエボ*]事件発生

セルビア系の秘密結社の青年による[7 *オーストリア皇太子*]夫妻暗殺

→7月 28 日　オーストリア，セルビアに対し宣戦（第一次世界大戦勃発）

→同盟・協商にしたがい次々と参戦

②　連合国…セルビア[8 *ロシア*][9 *イギリス*][10 *フランス*]

日本（以上 1914）[11 *イタリア*]＊（1915），アメリカ合衆国，中国（1917）　など

同盟国…[12 *ドイツ*]，オーストリア※，[13 *トルコ（オスマン帝国）*]，[14 *ブルガリア*]の4国

＊ 1915 イタリアはオーストリア領の[15 *未回収のイタリア*]の回復などを条件に連合軍に参加

（南ティロル・トリエステ・フィウメ）

※オーストリア＝正式にはオーストリア＝[16 *ハンガリー*]帝国

③戦争支持の動きと反戦論

1）第2インターナショナル（＝[17 *社会主義者・労働組合*]の国際連帯組織）

戦前は反対決議→戦争開始とともに大部分が[18 *祖国防衛*]をとなえ戦争支持へ

2）これにたいし

ロシア　レーニンら[19 *戦争を内乱へ転化せよ*]と主張

ドイツ　ローザ＝ルクセンブルクら[20 *スパルタクス団*]を結成，戦争に反対

3）人道主義者の反戦論…トルストイ，ロマン＝ロランなど

b．戦争の経過と総力戦体制

①[21 *西部*]戦線…ドイツは中立国[22 *ベルギー*]を侵略しフランス領内に侵入

→マルヌの戦い以後、パリ東方で戦局の膠着化→[23 *塹壕（ざんごう）*]戦へ

→新兵器（24＿*戦車・毒ガス・潜水艦* など）や[25 *飛行機*]の使用

②[26 *東部*]戦線…タンネンベルクの戦いでドイツの勝利以後、[27 *ロシア*]領内へ侵入

③海上での戦い→[28 *連合*]軍の優勢→ドイツへの[29 *経済封鎖*]をすすめる

→ドイツ、[30 *潜水艦*]で英仏の通商路を攻撃→ 1917 年[31 *無制限潜水艦*]作戦を開始

指定航路以外を通るすべての船舶を無警告で攻撃することを宣言

④日本→中国や[32 *南洋群島*]のドイツ根拠地を攻撃→地中海に海軍を派遣

⑤イギリス・フランスなど兵力や労働力の不足→アジア・アフリカの[33 *植民地*]などに求める。

⑥膨大な物資の需要、新兵器の開発、人的資源の必要→[34 *総力戦*]体制

総力戦体制…[35 *第一次大戦*]のなかで生み出された新たな戦略思想。ここでは戦争は戦場でのみ行なうという考えを否定し、36＿*国内すべての国力（人間や生産力　）を戦争に向けて動員する*＿＿という考えである。このため国民は兵士としてだけでなく、[37 *軍需*]工場などの労働力として徴用され、平和的な工場は軍需工業にかえられ、[38 *配給*]制度など強力な[39 *統制経済*]が実施された。[40 *女性*]の社会進出が進んだ側面も指摘される。

国民の不満をおさえ、国民の動員を容易にするため、[41 *マスコミ*]操作や教育を重視するようになってきた。

第一次世界大戦中のヨーロッパ

第一次世界大戦は[42 *1914*]年、ドイツの同盟国であった[43 *オーストリア*]皇太子が暗殺された[44 *サラエボ*]事件をきっかけにはじまった史上初の大規模な戦争であった。[45 *イギリス*][46 *フランス*][47 *ロシア*]を中心とした数十カ国にわたる協商国（連合国）と、[48 *ドイツ*]など4カ国からなる同盟国の両軍が、フランスのパリ郊外で塹壕を掘ってにらみ合うなどが、激しい戦闘が各地で4年間にわたってつづいた。

この戦争はこれまでの常識からは考えられないような巨大な物量戦・消耗戦となり、あらたに[49 *戦車*][50 *毒ガス*][51 *潜水艦*]などの新兵器が登場し、[52 *飛行機*]も戦争に使用されるなど、各国の[53 *生産力*]が勝敗の大きな要素となってくるようになった。

こうした事態を受けて、各国は国内での徴兵を強化し、不足する兵士・労働力をアジア・アフリカなどの[54 *植民地*]から動員した。また大量に消費される物資を獲得するため平和産業の工場を軍需工場に転用し、[55 *女性*]などを工場労働者として徴用、食糧などの物資に[56 *配給*]制をしくなどの対応を迫られた。このように戦争は国民生活すべてに影響を与えるものとなった。このように政治や社会を戦争目的に再編するような体制を[57 *総力戦*]体制と呼ぶ。

戦争が開始されると、国内には好戦的な声が高まり、ドイツやフランスでは戦争に反対していた[58 *社会主義者*]の多くも戦争支持にまわった。しかし戦争の長期化と国民の生活の窮乏から諸国には戦争への幻滅と不満が高まり政府は戦争体制を維持するために強力な支配をおこない反対勢力への弾圧を強めた。